

第 1 部 FLY

“Sunshine Love” (2・3年) <セシリオ & カポノ> arr. by 江頭 淳

オープニング…まずは軽快な曲からいってみましょう。最近話題になり始めたハワイのグループ、“セシリオ & カポノ”を日本盤が発売される前に KW がやったといういわく付きの曲です。

“Rumblin' Man” (2年) <オールマンブラザーズバンド> arr. by 大阿久 雅広

このせせこましい国から脱け出して、広大なアメリカで放浪者を気取ってみたいというわけです。あちらがカッペならこちらもカッペ…ああ、この泥臭さは我々の宿命なのだろうか。

“Let It Grow” (2年) <エリッククラプトン> arr. by 橋本 武寛

このあいだクラプトンが来日した際にはとうとう歌ってくれなかったこの歌を、“Plant your love and let it grow” こんな願いを心に抱きつつ今あなたに。

“The Thought of Loving You” (3年) <マンハッタントランスファー> arr. by 江頭 淳

KW の3年会ではめったに見られぬホンワカ路線に敢えて挑戦します。“暗闇の中で私の心に光をともすのはあなた…” 訳すとなんだか恥かしいような…。

“フランションがこの前来たわ” (3年) <ピエールボネ> arr. by 伊藤 文一

バロックの情緒を今風に、ア・カペラで凛々しくトライします。仏語だか伊語だかわけのわからぬ言葉で“私がひとりである時にフランションが来て私を口説いたの”という内容だけは確かなのです。

“Green Sleeves” (3年) <イギリス民謡> arr. by 伊藤 文一

やはり良い曲は良いのでしょうか。去年のこのホールに響きわたった感動をもう一度、まだ KW '75 のこの曲を聞いたことのない人のために再度挑戦します。Green Sleeves へ…。

“Sam Stone” (4年) <アル・クーパー> arr. by 高山 茂樹

芸能界でマリファナが問題になっている昨今です。この歌の主人公 Sam も南北戦争の退役軍人として、家族にも見捨てられ、つい手を出してしまったのです。こわいですね。

“Don't Let Me Down” (4年) <ビートルズ> arr. by 井上 健一郎

かって KW '70 の先輩方が、美声をもって歌い、それを聞いた当時の下級生達はその迫力に絶句したといわれている曲を、我々 KW '74 がリアレンジして挑みます。

“Old Fashioned Love Song” (1年) <スリドッグナイト> arr. by 伊藤 文一

イントロの妙なアレンジ…1年のミスではありません。それにしても彼らはユニークな曲を選びました。でも若い1年生…この曲にかけて元気よくトライします。これからも KW '77 をよろしく願います。頑張れ！ 1年！！

“Hold Me” (1・2年) <ザ・ビッグ> arr. by 大阿久 雅広

練習を重ねていくうちに、本来ロックンロールだったこの曲は宴会ソングになってしまったのです。学年的には若い年齢的には老いている1,2年の本質を暴露してみたいと思います。

—祝 第12回定期演奏会—

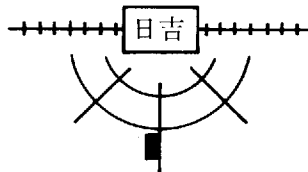


- 貸ホール
- 各種レコード・楽器
- その他

日吉駅前中央通り

TEL 044 (63) 5511

東横線 日吉駅前 **山響楽器**



第 2 部 TRY

II部 特集『それでも日本人…』 Inside of My Soul

かって日本人はいろいろなスタイルの外国の音楽をとり入れ、まねをし、原曲の底に流れる心に触れようとしたものでした。そのうちに日本人は独自の器用さでもって、それら外国の音楽をみごと消化してしまい、外来のリズム、音階に日本語の歌詞をつけて歌うという、近頃盛んなニューミュージックのスタイルを作り出しました。しかし…それを歌う日本人の魂は、形で外へ向かおうとするのとは裏腹に、心の内面にしっかりへばりついて離れようとはしないのです。さあ、さまざまな音楽に挑戦する日本人の姿をごらんにいれましょう。

“イスタンブールマンボ” (2・3年) <鈴木慶一とムーンライダーズ> arr. by 田村 裕
1曲目はマンボのリズムをおとどけします。異国情緒タップリのこの曲にあなたは何か感じますか。

“まだまだ産婆” (縦割り) <サディスティックミカバンド> arr. by 江頭 淳
かって某女性歌手が白いチョウのサンバという曲をヒットさせましたが、サンバのリズムは日本人の体にうまく溶け込んでしまうものようですね。

“わたしは風” (縦割り) <カルメンマキ & オズ> arr. by 内田 互
つづいてギンギンのニューロックをお楽しみ下さい。日本人のロックは今や世界に出しても恥しくないだけの音楽性を備えるようになりました。これほど緩急自在なロックは日本人ならではのものでしょう。

“ナイアガラ音頭” <大滝詠一> arr. by 浜田 和夫
あらゆるリズム、あらゆるジャンルを踏襲した日本人は、とうとう日本古来の音楽に舞い戻ってしまいました。しかし堂々めぐりの後に行きついたこのナイアガラ音頭はやはり、外来の演奏形態をとり入れたものとなっていたのです。

えぞ菊

サッポロラーメン

本店	明治通りワセダボール前	TEL 208-1919
戸塚店	ワセダ通りインド大使館前	TEL 202-9157
荏原店	旗の台駅際荏原ビル内	TEL 781-2870
動坂店	不忍通り道灌山交差点寄り	TEL 821-2537
新宿店	新宿末広通り	TEL 354-7798
三河島	蝦夷	TEL 801-0480
ハワイ	クヒオ店	TEL 941-1646
	カラカウワ店	TEL 923-2234

第 3 部 CRY, K. W.!

SING OUT
THIS IS KW NOW

“Groovin’” (2・3年) <ブリガッティ> arr. byb 江 頭 淳

さあ、いよいよ第3部に突入です。華かなこの郵便貯金ホールにエレクトリックな白人ソウルの登場です。ファンキーなサウンドも Sing Out にすれば、ほら、こんな具合に……。

“Don't Let it Rain” (2・3年) <ジェファーソン・スターシップ> arr. by 江 頭 淳

先日の明治・家政とのジョイント・コンサートのエンディング曲がまたまた登場。さあて、振り付けが付くかどうかは見てのおたのしみ…

“Poor Boy” (2年) <スーパートランプ> arr. by 大阿久 雅広

パリの薄汚れた裏通りをわがいとしの金欠病ボーイズと同行しましょう。もの悲しくも調子はずれの口笛とクラリネットと、けだるいベースの無細工な愛の告白にささやかな微笑を…。

“Here Come Those Tears Again”(2年)<ジャクソン・ブラウン> arr. by 橋本 武寛

死ぬ程の思いをして別れた恋人が再び戻ってきた時の戸惑いを妻の狂言自殺死という逆境の中で静かに歌いあげた曲です。女性のコーラスと男性のコーラス、さらにはソロとのかけ合いにご注目下さい。

“Lady Luck” <ケニー・ロギンス> arr. byb 伊藤 文一

こんな曲にはめったに出くわさない。ケニー・ロギンスは我々にとても良い曲を残してくれた。しかし、その良さをどこまで表現できるか。Lady Luck …まさにそのサウンドは現代を代表するものである。

“I Shall Be Released” (3年) <ボブ・ディラン>
arr. by 佐藤 信雄・加藤 博史

“私達にも未来への光が見出せますように” というボブ・ディランの願いを我々 KW '75 がどこまでお伝えすることができるでしょうか？

お好み
割烹 有 明

三田慶應仲通り

☎ 451-2784

☎ 451-8520

“Follow the Drinkin' Gourd” (3年) <伝統曲> arr. by 伊藤 文一

KWの真髄ともいべきこの曲で我々も現役を退きます。

「北斗七星をめざして進めば自由の地にたどりつける」重々しいリズムでそれを浮き出し、KW '75全員、心意気で力の限り歌い上げます。

<ボニー・レイト>

“Everything that Touches Me, Touches you” (4年) arr. by 高山 茂樹
井上 健一郎

あなたと私がいっしょに過ごしてきたすべてのことがこわれてしまいました。あのときはほんとにいっしょだったのに……。ポップな最新LPでまだまだ頑張っているボニー・レイトのナンバーです。

“Israel” (4年) arr. by 井上 健一郎

いよいよ我々 KW '74も卒業を控え、最後の定演の最後の曲となりました。我々が4年間KWにおいて得たものを思いきりぶつけてみたいと思います。どうもお世話になりました。

“Miss Otis Regrets” (3・4年) <ビリー・タイタス> arr. by 高山 茂樹

恋に落ちたオーティス嬢。思いあまって恋人を殺してしまいます。哀愁のこもったこのメロディーは年老いた3・4年にピッタリではないでしょうか。

“Save Our Ship” (2・3・4年) <ブラットスウェットアンドティアーズ>
arr. by 伊藤 文一

ソロヴォーカルをメインにコーラスの微妙な兼ね合いの中からあなたは何を感じるでしょうか。誰もが遭遇する窮地の中での叫びをこの曲に託しエンディングブロック2曲目を飾ります。

“Many Rivers to Cross” (1・2・3・4年) arr. by 伊藤 文一

渡る河は多いけれど…。今ある失望のどん底から遥かなる希望にむかって1年から4年までがそろって歌いかける大Sing Outです。

“時は知らずに…” (1・2・3・4年) 詩・曲 伊藤 文一

補作詩・編曲 江頭 淳

いつの間にか過ぎゆく時の中につらいこと、悲しいことはたくさんあったけれど、私たちにはいつも一緒に歩む仲間がいました。今、そんな仲間と共に歌う喜びをKW全員で歌いあげます。歌よ友よ涙よさらば……またいつの日か……。

祝 第12回定期演奏会

FIRST CURRY

<TEL> 451-7 4 4 7

ワァー、おいしい!
カレーなら、ファーストね!

割引券
期間12月中
全品50円引き
ファーストカレー

